

社会に繋がる

SOCIETY

世界の国々や地域の人々に心と力を合わせて

社会貢献とコミュニケーション

次代を担う若者のために

当社創業者である浅野総一郎が開設した横浜市鶴見区の浅野学園では中学校・高等学校の図書館、体育館の新築工事を設計施工にて行っています。

ここでは隣接する浅野工学専門学校の学生を対象に工事（解体／杭・山留／基礎／躯体）の進捗に合わせ、約10～20名の学生が参加して、これまでに4回の現場見学会を行いました。躯体工事の回では当社設計担当者が構造を解説し、参加した学生は熱心に聞き入っていました。見学会後のアンケートでは「実際の現場を見ることができ、良い経験になった」、「学んでいるところが確認できて大変参考になった」などの好意的な意見のほか次の開催を心待ちにする声もいただきました。

また同専門学校では2014年4月より建築事業本部より講師を派遣して建築工学科4年生の「施工図実習」講義を受け持っています。

講義は建物建設における施工図の位置づけから躯体図やタイル割付図の作成までを一年間で取得させるもので、実際の建物の設計図や使用された施工図との比較検証を行ったり、現場見学会や職員との座談会を取り入れるなど工夫を凝らしながら進めています。

今後も現場見学の開催や教育活動を通じて建設業の使命と姿を真摯に伝え、次代を担う学生に建設業の魅力を発信していきます。

防災教育で地域に貢献

当社技術研究開発センター（横浜市鶴見区安善町）では、これまで地元の小学校を対象に社会科見学を受け入れてきました。今回は関東地方整備局発注の横浜港本牧地区岸壁（-16m）（耐震）（改良）築造工事と共同で、横浜市の小学生を対象に社会科見学会2回および出張授業を4回行いました。

社会科見学では、当社の創業者であり「京浜工業地帯の

父」の愛称で知られる浅野総一郎や鶴見・川崎地区の埋立ての歴史の説明と、1921年（大正9年）に建造されたドライドックの見学、そして埋立地で行われる地震対策の1つである「液状化対策」について、その必要性の説明と実験を行いました。

液状化現象の模型実験では、人 工的に液状化を起こし、砂の層から水が噴出し、建物の模型が倒れる様子を確認しました。その後、実際に工事で使用する2種類の薬液が化学反応により固まる実験や砂を薬液で固める実験をとおして、液状化対策工事の内容を理解してもらいました。

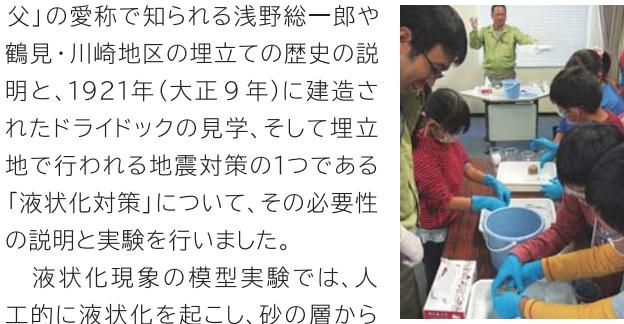
出張授業では、社会科見学と同様に地震や液状化について説明した後、液状化現象の模擬実験と薬液を使用して砂を固める実験を行いました。

これらの社会科見学や出張授業をとおして、京浜臨海部の歴史の理解とともに地震に対する防災意識の向上を参加した小学生に期待します。本活動に対して、各校より感謝状をいただきました。

園児に笑顔を

釜石港湾港防波堤の復旧工事の現場では、地域とのコミュニケーションの一環として、小学生や保育園児たちを対象に現場見学会を企画しました。子供たちに笑顔になってもらう目的でしたが、保育園の先生方からは「まだ震災当時の記憶が残り、海に近寄りたくないという子供もいる」と聞かされました。震災で傷ついた子供たちに何か協力できることはないかと尋ねたところ、「砂場の砂が足りない」ことを教えていただきました。震災の影響による資材不足で、保育園の砂場の砂が入手できずに困っていたのです。

こんなところにも震災の影響が及んでいることに驚きつつ、工事で使用するために購入した砂を寄贈しました。保育園側にも非常に喜んでいただき、感謝状を頂戴しました。我々職員も、子供たちの笑顔に癒されました。



東京湾再生官民連携フォーラムへの参加

2013年11月23日に立ち上げられた「東京湾再生官民連携フォーラム」は、東京湾に関わる官・民・学・NPO・市民など多様な主体が、豊かな東京湾を取り戻すために協働する場です。東京湾沿岸の鶴見を発祥の地とする当社は、まさに時代の要請に応えつづけてきた東京湾の恩恵を未来へ伝えなければとの思いから、同フォーラムに参加しています。設立総会やその後の「東京湾大感謝祭」には、東京湾を舞台に活動する



東京湾の水質を観察

たくさんの方々が集まり、さまざまな情報が発信されました。当社が長年、海の仕事で学んできたことや、同フォーラムに参加する方々との多様な協働が、東京湾再生の一助になればと考えています。

「木更津イルカ計画」清掃活動

「木更津イルカ計画」は清掃活動を行い、木更津港に海浜を復活させ、自然環境と調和し人と人同士が調和することを目的とした活動です。



スタートから5年余りが経過し、2014年4月の活動で第30回を迎えました。

南総工事事務所ではこの活動に賛同し、木更津港を中心とした2ヶ月に1度の清掃活動や年に1回の木更津干潟水棲生物観察会などに参加しています。清掃活動では、建設会社ならではの重機を使用して石材の集積も行いました。

これらの活動が評価され、2013年3月に主催者のNPO法人より感謝状をいただきました。今後もこのような地域活動に積極的に参加していきます。



エイズ防止撲滅キャンペーン

当社は、インドネシアのカリマンタン島東部にあるタラカン島で、石炭運搬用バージの修理等を目的としたシッピヤードを建設しています。

現在、タラカン島で生活するスタッフや労働者に対してHIV/AIDSが身近に存在する問題であることを認識してもう目的で、正しい知識、感染リスク等について専門団体(NGO)の支援を受け、現場スタッフや作業員を集めてエイズ撲滅キャンペーンを実施しました。



一人ひとりができることからはじめる

エコキャップ活動の推進

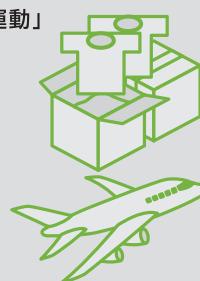
当社は、NPO法人エコキャップ推進協会が推進するエコキャップ活動に参加しています。この活動は、ペットボトルのキャップを再資源化してCO₂の削減を図るとともに、キャップの再資源化で得た売却益で世界の子どもたちにワクチンを届けることを目的としたものです。



本社・支店のオフィスから現場まで全社で取り組み、2013年度は51万7,877個を回収しました。これはポリオワクチン602人分に相当し、3,793kgのCO₂を削減することができました。なお2008年9月から参加し、186万個余りのキャップを回収しています。

タイ・ラオスに「救援衣類を送る運動」「書き損じハガキ回収運動」

アジア連帯委員会(CSA)では1980年以来、難民キャンプやタイ・ラオスの方々に「救援衣類を送る運動」を行っています。当社労働組合はこの運動の趣旨に賛同し、組合員に協力を呼びかけています。2013年はダンボール箱73個分の衣類を送ることができました。



また、特定非営利活動法人のハンガーフリーワールドが世界の飢餓・貧困撲滅を目的に行ってている「書き損じハガキ回収運動」に参加し、2013年度は書き損じハガキ266枚、未使用テレホンカード1枚、未使用切手260円分の提供を行いました。